

記念誌あいさつ



流山市長 井崎 義治

第四十回流山市書道展の開催、誠におめでとうございます。

流山市は、「都心から一番近い森のまち」を目指すまちのイメージとして掲げ、緑豊かで良質な住環境の整備を進めるなど、快適なまちづくりに注力してきました。こうした取り組みが実を結び、第三十回流山市書道展が行われた平成二十八年には18万人に満たなかった人口は、現在約21万6千人となり、多くの方には選ばれたまちとなっています。今後も市民の皆様にとって「住み続ける価値の高いまち」であるためには、日々の日常に彩りを与えてくれる文化芸術の振興は、非常に大切な要素だと考えています。

この度、「流山市書道展」が記念すべき四十回目の節目を迎えられましたのは、流山市書人協会の皆様が、市民の皆様やたくさんのごどもたちに書道文化に親しむ機会を提供し、書道を通じて見る喜び・書く楽しみを広げるため、長年にわたりご尽力された賜物と、心より敬意と感謝を申し上げます。

今後とも、「流山市書道展」の開催をはじめとする会員の皆様のご活動を通じて、本市の彩り豊かな文化芸術の醸成へのお力添えをお願いするとともに、流山市書人協会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

流山市書道展四十回記念誌発刊によせて



流山市議会議員 石原 修治

この度は、流山市書道展四十回記念誌におめでとうございます。

近藤会長を始めとする流山市書人協会の皆様におかれましては、流山市書道展などをおとして本市の文化振興の中心的な役割を担っていただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

指先一つで文字が打ち出される現代において、書道は、千数百年にわたる長い歴史を持ちながら、今もなおごどもから大人まで幅広い年代から親しまれる「書く芸術」であります。

書道展では、私も議長賞の授与をさせていただいております。展示の作品は、白と黒の対比の中に書き手の呼吸や心の姿が映し出され、書に対する一人ひとりの気持ちや熱意が伝わり、鑑賞する人にも大きな感動を与えていると感じます。

筆を執り、己と向き合う時間は、何物にも代えがたい貴重なひとときです。日々精進に励んだ作品を毎年出品することができるとこの書道展があることは、書道の文化を守り、継承するという面から大変意義深いものであり、どうか、今後も末永く継続していただきたいと存じます。

結びにあたり、四十回記念を新たな出発点とし、流山市書人協会のますますの御発展と、関係者の皆様の御健勝と御多幸を祈念してお祝いの言葉いたします。